



Collaboration!



島高ワンダーランド

SHIMAKO - WONDERLAND

しまいろ No. 3

2020 spring

特別版

小豆島の高校の
生徒たちがつくる
島の未来を考える
フリーペーパー



小豆島
サイコー!



島と卒業生・在校生をつなぐ“島高ワンダーランド”プロジェクト

日本全国で人口減少・少子高齢化が問題となっておりますが、我が小豆地域においても同様で、2020年現在では27,000人を下回り、今後毎年約500人(人口減少率約2%)ずつ減っていくことが予想されています。これは、単なる数字上の話ではなく、先人から受け継いできた地域・集落の文化や産業を後世に繋ぐことが容易ではないという現実と直面していることとなります。一方で、2010年に開催された瀬戸内国際芸術祭以降、各集落内を徒歩で巡る個人旅行客が増加し、その方々が島民と接点を持って交流を重ねていくうちに、私たちが気付かない“普通の暮らし”の豊かさを島の魅力として発信していってくれました。その結果、30~40歳代を中心とした方々が移り住み、更に新しい島民となった皆さんがSNSなどを活用して発信をしていくことで、新しい移住の方だけではなく、小豆島・豊島出身の方が島の良さを再確認して戻ってくるという好循環が生まれ始めています。

小豆島中央高校では、地域の方との協働で「しまのみらいプロジェクト」を実施しています。これは「島の魅力」を様々な視点から掘り出し、良さを再認識してもらって島を未来につないでいく活動です。この活動は小豆島ロータリークラブの理念にも通じており、創立60周年を迎えるこの機会に記念事業の一環として島高ワンダーランド活動を発展的に支援することにしました。島外に出る卒業生とのつながりを重視し、Uターンの促進や島と関わり続けるための「場」を作って運営する活動を今後も支援していきます。

本事業は、「島と卒業生・在校生をつなぐ“島高ワンダーランド”プロジェクト」とし、進学や就職といった新しい世界へチャレンジしていく生徒に向けて、卒業後も島と繋がれる「場(ウェブサイト)」を作ること。その“場”から、在校生や地域の方々と一緒になって高校の今の情報や島の魅力を発信していくことによって、今までとは違う視点からふるさとの良さを再確認してもらいたいと思っています。

“島は一つ”を象徴する小豆島中央高校の活動をバックアップしていくことで、小豆地域の未来が少しでも明るくなっていくことを心より願っております。

C
O
N
C
E
P
T

小豆島中央
高等学校

「自立・真心・小豆島」

まわりとの関係を適切につくり、どんな状況でもたくましく自らの力を発揮する。
物事の本質、真理を見極める心をもち、何事も心をこめて行う。
自分の属しているところに誇りをもって大切に、仲間と気持ちを合わせてともに高め合い、将来を担う人になる。

小豆島
ロータリー
クラブ

奉仕の精神で 地域に貢献する

ロータリーの理念は人道的な奉仕を行い、すべての職業において高度の道徳的水準を守ることを奨励する団体である。
このことから、小豆地域のこれからの未来を地元の若者(高校生)と一緒に考えていきたい。

しまのみらい
プロジェクト

社会に出た時に役に立つ力を 身につける場

小豆島を離れた時に、自分たちに何ができるのか、帰ってくる時に何をもち帰りたいのか、を小豆島を離れる前に、島の良さや働く人たち・仕事をよく知り、進学または就職後にUターンを考え、島と関わりつつけるきっかけにする。

小豆島の高校の生徒たちが
つくるフリーペーパー





特集 1

2 YOUは何しに小豆島?!

アンケート調査からの発見をもとに、
高校生が“島の観光”へ提言!



特集 2

しまみらスポット調査班が行く /

美味しい 楽しい 小豆島

6 P.M.12:00の腹ごしらえ
9 #インスタ映えSPOT

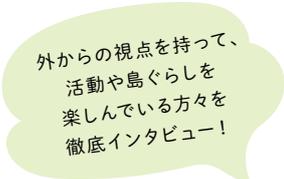


特集 3

New Life Catalog

移り住んできた人から見える島の魅力とは?!

- 10 人と人とのつながりを軸足にする“ローカルプロ”
- 12 島に戻ってきました!
- 14 小豆島移住体験ツアー
- 15 小豆島に移住してきました!



しまのみらい
会議

16 私たちが考える“ふるさとの魅力”と
“未来の小豆島”

Shimakou-Wonderland Web Site

小豆島中央高等学校サテライトサイト

島高ワンダーランドがOPENします!

部活・その他活動



外の人になかなか
知ることができない
“頑張る”高校生を
知ってほしい!

在校生・卒業生の声



高校生や卒業生が考える
「島と自分」や日頃の声を
不定期に掲載します。

島の魅力・NEWS



常に変化し続ける小豆島。
新しいニュースとともに、
変わらない魅力もお伝え!

島の企業・産業(求人)



島を支える産業や
それぞれの会社の魅力、
島で働く良さを
発信していきます。

Web サイト
www.shimakou.life



お問合せ
記事投稿
情報提供



KANKAKEI ROPEWAY



YOUは 何しに 小豆島?!

毎年100万人を超える方々が小豆島へ来ています。私たちが住むこの小豆島に「どんな方々が」「何の目的で」「来てみてどう思ったのか?」などを実際にアンケート取材しました。そこから見えてくる小豆島観光の実情、そしてもっと盛り上がるためのアイデアを考えてみました!



Tourist Spot 01

エンジェル
ロード

Question



ANGEL
ROAD

- Q1. 何を見て小豆島を知りましたか?
- Q2. 何をしに(どういった目的で)小豆島に来ましたか?
- Q3. 小豆島に来てどこに行く予定ですか? もしくはどこに行ってきましたか?
- Q4. 小豆島での移動(交通)手段は何ですか?
- Q5. 小豆島の満足度はいかがでしたか?
- Q6. 小豆島にこんなものがあつたらいいな。もっとこうして欲しい!というご要望があれば是非お聞かせください。



Shodoshima
OLIVE PARK

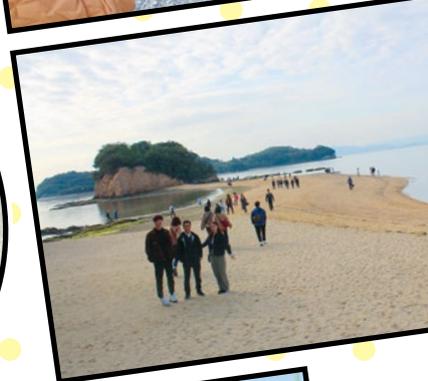
Tourist Spot 02

小豆島
オリーブ公園



Tourist Spot 03

寒霞溪
ロープウェイ



Tourist Spot 04
土庄港



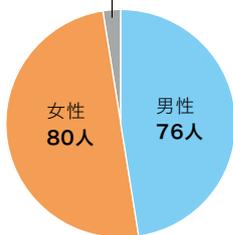
TONOSHO
PORT

アンケート結果

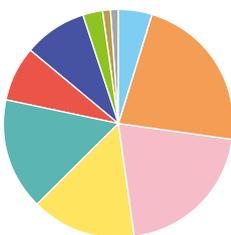
ご協力ありがとうございました！

回答者属性

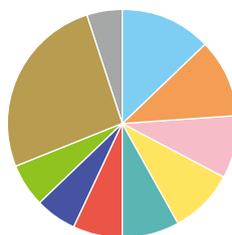
性別



年代

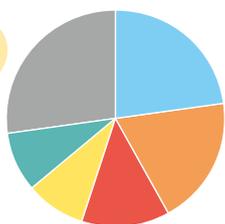


居住地



Q1. 何を見て小豆島を知りましたか？

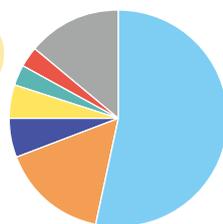
誘客チャンネルはWEB・SNS！



WEB・SNSが来島への起点になったきっかけとして高く、「元々知っていた」方も今回の来島のきっかけはWEB・SNSとマスメディアの効果が高いと思われる。

Q2. 何をしに(どういった目的で)小豆島に来ましたか？

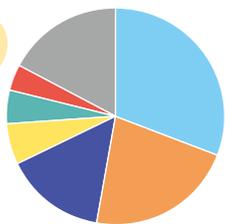
やはりほとんどが観光！



11月中旬の観光シーズンに取材したこともあり、目的はほぼ観光。数は少ないが、サイクリングやツーリングといった島全体を周りた方も一定数存在。

Q3. 小豆島に来てどこに行く予定ですか？ もしくはどこに行ってきましたか？

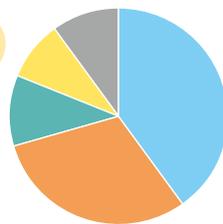
秋は寒霞渓&オリーブ！



紅葉時期ということもあり、寒霞渓ロープウェイへの訪問者が多かった。各施設を優先的に周る方は、スポット周遊の観光スタイルが多い。

Q4. 小豆島での移動(交通)手段は何ですか？

車両移動が半数以上！

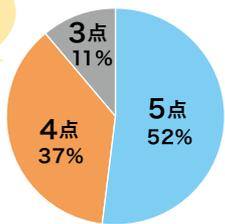


車の内訳は自家用車、レンタカーがほぼ半数ずつ。ツアーバスも入れると全体の5割以上が車両移動。徒歩客はオリーブバスの利用率が圧倒的に高い。

Q5. 小豆島の満足度はいかがでしたか？

※5点満点中

平均満足度は4.4点！

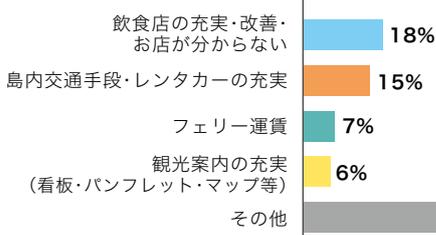


低評価の方のコメント

- ・フェリー運賃が高い
- ・交通機関の充実 レンタカーを充実させて欲しい
- ・趣味や釣り、アクティビティ、体験など目的に特化したパンフレット・MAPが欲しい

満点と回答していただいた方が全体の回答数に対して5割以上となり、期待以上の満足を得られたと推測できる。右に記載している低評価の方のコメントも参考にしたい。

Q6. 小豆島にこんなものがあつたらいいな。 もっとこうして欲しい！というご要望があれば是非お聞かせください。



飲食店情報の発信が必要！

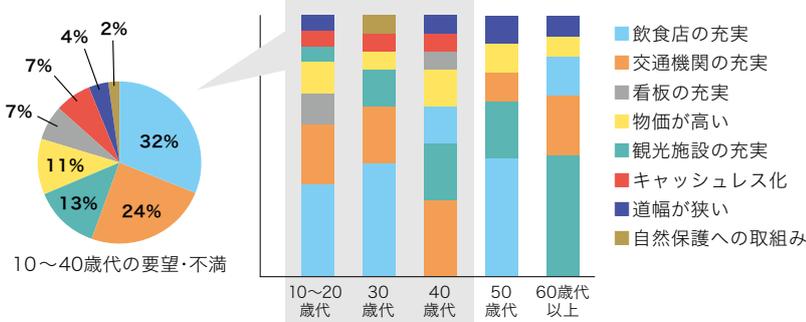
満足度調査では高評価であったが、当設問の意見は多く、今後の島の観光が持続するためには欠かせない要素である。特に飲食店情報の発信、島内交通は重要。

小豆島の観光がもっと盛り上がるための 私たちの提言

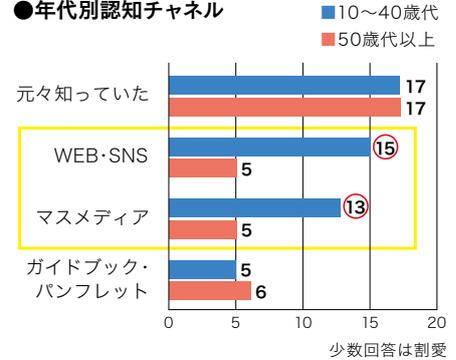
提言 1

若年層への来島促進は“食”情報をWEB・SNSで発信！

●年代別に感じている小豆島観光改善点 ※その他・未回答を除く



●年代別認知チャネル



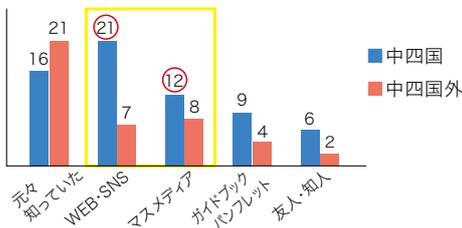
和田 真之輔

小豆島の改善点として“飲食店が少ない”という声が多く、特に20代30代の方が最もそう思っている。更に、10~40代のチャネルはSNS・WEBが最も多いため、それらを利用して小豆島の飲食店の情報を発信していけば改善できるのではないかなと思う。具体的には、InstagramやTwitterで、小豆島のカフェや飲食店の情報をまとめた総合的なグルメアカウントを開発する。60代以降の方からは“観光施設が少ない”という声が多かったため、施設を充実させたらどうだろうか。

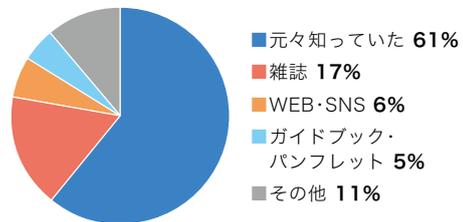
提言 2

遠方(都市圏)からの誘客にはWEB・SNS×マスメディアが有効！

●YOUの来島のきっかけは？(エリア別)



●香川県内から来たYOUのきっかけは？



香川県内在住の来島者は小豆島のことを元々知っていた人が多く、小豆島の認知度は高いことが期待できる。このことから、“小豆島のことは知っているが行ったことはない”という人にも来島してもらうために、「島高ワンダーランド」の冊子を県内にも配布する。また、遠方からの観光客には小豆島をもっとアピールするために、WEB・SNSの他にマスメディアを利用するのが有効である。

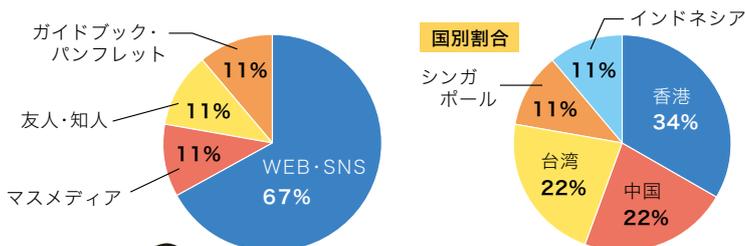


平野 葵子

提言 3

インバウンド対策はWEB・SNSで多言語発信！

●海外から来たYOUが何をきっかけに来島したか



藤田 宗太

海外からの来島者はWEB・SNSを見て来る人が多いため、海外に向けてアピールする際はネットを活用すると効果的である。

おかもと ななこ 2年 岡本 奈那子

今回の活動を通して、この島の未来について深く考え直すきっかけとなりました。ずっと小豆島で過ごしてきた私にとって当たり前だと思っていた様々なことが、島外の方から見ると、とても魅力的なものなんだと交流を通じて感じました。これから小豆島がより良い島になるためには島外に住む方々の意見も聞き入れていくことが大事だし、アンケートの集計作業時や、他の参加者や大人との話し合いの中で、小豆島をより魅力的な島にするためには、若い人から年配の人まで幅広い人が小豆島を満喫できる観光地が必要なのではないかと考えました。将来はこの経験を生かした職業に就き、小豆島のために自分ができることを全力でやっていきたいと思えます。





P.M.12:00の腹ごしらえ😊

小豆島にはおしゃれておいしいお店がたくさんあります。
そんなお店を私たちが"巡"ってきました。
1つ1つお店のこだわりがあり、どれもとてもおしゃれておいしかった
です。みなさんもこれを見て巡ってみてください!!



『マルゲリータ』
外はカリカリ、中は
モチモチの生地が
とってもおいしい!



buon compagno

[ブオン コンパニー]

迷路の町の中にあるイタリア風味を感じるこのお店。
"同じピザは1枚もない"と名言を残した店長さん。
発酵加減や焼き時間によって"少しづつ"違いが出る
らしい。定番メニューのマルゲリータの他に季節の食材
を使ったピザやパスタのメニューがあります。
ナポリの窯で焼いたピザを召し上げてみて下さい。

@buon.compagno56
土庄町甲289-17
11:00-14:30/18:00-21:00
不定休 ※事前問い合わせ
0879-61-9600



森國ベーカリー

[morikuni bakery]

店内はおしゃべりですが、落ちつく空間でも
あります。
1番人気は酒粕あんパン!
あんこの甘さの中にほんのりがある酒粕が
あり、少し大人な味です。
朝早くから並ぶ人が多く人気の
ある森國ベーカリーへぜひ行ってください!



中はフワフワで
外はカリッと
おすすめの
『あげパン』!



朝早くが
オススメ!

小豆島町馬木甲1010-1
9:00 - 17:00
火・水・木曜日休
0879-62-9737



La Clarté

[ラ・クランテ]

港周辺にお店をかまへ、多くの観光客や
周辺の地域の人達のために“満足し
て帰ってほしい”をモットーにしたこのお店
のメニューはどれもボリューム満タンの小豆
島のモリみやオリフソルトを使用するなど小豆
島の味が存分に楽しめるお店です。

📍 @laclarte_shodoshima
📍 小豆島町池田228-36-2F
🕒 9:00 - 14:00
🗓 不定休
☎ 0879-62-8855



『カラフルレスカ』
最後まで変化が楽しめます!

人気の醬バーガーに加
え、2月から島産バーガー
(1日10食限定)が登場!
ランチ・デザート
新メニュー登場!!
今あるメニューも
リニューアル



Pizza kamos

[ピッツァ カモス]

小豆島に初めて来た時、空気に発酵を感じたという“微生物愛”の強い店長さん。
小豆島の野菜を使っているピザはとてモフッ
シユなテイストでさわやかな気分になれます!
元パン屋さんで、ピザづくりは生地にこだわっ
ているそうです。大きなかまで火を通さずピザはとて
イイにおい。



📍 @pizza_kamos
📍 土庄町甲吉ヶ浦6190-80
🕒 11:00 - 15:00 / 18:00 - 22:00
🗓 月曜日休 + 不定休 火曜日
☎ 0879-62-8731



Saints Breakfast & Burgers

[セイントス ブレックファスト アンド バーガーズ]

小豆島の自然に感動してオーストラリアから
移住してきた店長さんたち。お肉は“オ
ーストラリアビーフ”はなんと100%にこだわ
り、セイントスバーガーにはパインを使用し
オーストラリア流のハンバーガーが味わえます。
月限定メニューもあるので毎月通ってみたい
ですね!!



『セイントスバーガー』
ハンバーガーに
パインナップルって
合うんです!



📍 @saintsburgers
📍 土庄町甲270-2
🕒 7:00 - 10:00 / 11:00 - 14:00 / 17:00 - 20:00
🗓 月曜日休
☎ 0879-61-9201

TODAY IS THE DAY

[トッデイイズザデイ]

海を眺めながら、小豆島の雰囲気を
味わえるようなカフェです。
おすすめはパンケーキ!フワフワで口溶け
がよく、なめらかな食感でやさしい味です。
小豆島でのんびりしたときは、
ぜひ TODAY IS THE DAYへ!!

@todayistheday_shodoshima

- 📍 小豆島町西村甲2019-2
- 🕒 水~金曜日 13:00-18:00
- 土曜日 11:00-18:00
- 日曜日 13:00-17:00
- 🚫 月・火曜日休
- ☎ 050-5278-0568



森國ベーカリー
酵母パンを使用した
『ホットドック』

バナナキャラメルパンケーキ



ホリフキバーガー



、 棚田のおにぎり定食 /



こまめ食堂

[komame syokudo]

自然の中のじつじやい場所で
食べるご飯はさらにおいしく感じられます。
特におすすめなのは棚田のおにぎり定食。
棚田でとれたお米を炊いたおにぎりは
ふわふわの魚と相性が抜群!!
なつかしさを感じられるやさしい味つけです!

- 📍 小豆島町中山1512-2
- 🕒 11:00-16:00 (15:00 L.O.)
- 🚫 火曜日+不定休あり
- ☎ 080-2984-9391



タコのまくら

[tako no makura]

おちついた雰囲気、ついお昼寝
したくなるような、お店です。
イルシーでおいしい『今日のごはん』は
野菜や調味料は島のものを使っています。
デザートにはおいしいチーズケーキも
タコのまくらでのんびりとした時間を
すごしましょう!

@takomaku88

- 📍 小豆島町池田1336
- 🕒 11:30-17:00
- 🚫 火・水・木曜日休
- ☎ 0879-62-9511



海うさぎ



今日のごはん





shimakoulife



1



天使の舞い降りる場所
エンジェルロード
🚗 エンジェルロード前
#天使の道



アートベンチ
～天使の休息～
天使のポスト
#天使の道 #アート作品

2



ここは昭和??
迷路のまち
🚗 本町
#妖怪に会えるかも #おいらソフト



パイで作った
お地藏さん
#迷路のまち #アート作品



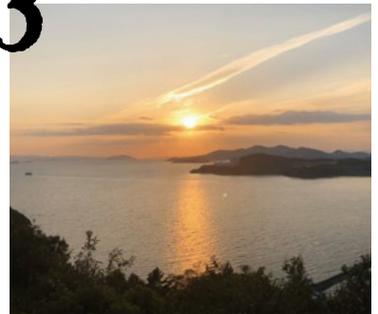
Photo Spot



#インスタ映え SPOT

私たちおすすめの小豆島の
魅力を紹介します!!
ぜひ行ってみてください!

3



こんなにきれいだったの!?
ふるさと村<城山公園>
🚗 ふるさと村
#世にも珍しいスモソフト
#キャンプしながら見たい夕日

4



地元の人しか知らない秘境
西の瀧
🚗 西蒲生
#爽快感
#行ってみる価値あり



5



オリーブだけじゃない!!
オリーブ公園
🚗 オリーブ公園前
#キキにもなれちゃう #空飛びたい

しまみら1班



いいね! 476件
しまみらスポット調査班!
小豆島を巡ってみました!
#小豆島 #インスタ映え #観光地



ピボット

人と人とのつながりを軸足にする “ローカルプロ”



STONES

親 友のお父さんから「親孝行は生きている時にしかできない」という言葉を聞いて、「自分が家業を継ぐしかない」という思いが芽生え、24歳で島へ戻りました。しばらく経って、2017年に渡部さんがスポーツティーズを立ち上げ、その年末に香川ファイブアローズ小豆島公式戦で深く関わり、そうするうちにこの活動を「もっと応援したい」と思うようになり、応援団長のつもりで代表理事に就くことになりました。スポーツティーズは、「地域のもの」になること。ストーンズは、小豆島でしかできない何かを追求し、ローカルプロとして地域に関わっていきける人・チームになることを目指して、みんなを盛り上げたいですね。

Interview
01

にぶ
丹生 茂希

一般社団法人小豆島スポーツティーズ 代表理事
小豆島STONES 代表

**自**

身の病気と経営力不足から、GMの職務を退任しました。わがままと迷惑をかけて申し訳ないと思いつつ、その失敗のおかげで自分が一番大切にしたいものが何かを気づくことができたんです。それは、コートで選手と一緒にいたい…心臓バスケが好き「人⇨選手」と対等に話し、一緒に前を向いていきける人になりたいという想いで、今年からコーチの一員としてストーンズに関わっています。僕も挑戦者の一人として、もう一人のコーチと共にストーンズのヘッドコーチの座をかけて切磋琢磨しているところです。チームに関わる全員が自身の夢に挑戦するストーンズをこれからもよろしく願います。

Interview
02

わたべ
渡部 勝之



小豆島スポーツティーズ 発起人
小豆島STONES コーチングスタッフ

小 さいころからバスケットが身近にある環境で生まれ育ち、そのまま学生時代も全力でバスケットに取り組んできました。大学卒業後は、社会人チームを持つ企業に就職をしましたが、「プロ選手になりたい」という想いが捨てきれず、SNSでストーンのトライアウト情報を知り、チャレンジすることに決めました。島での生活は想像ができない部分が多かったですが、実際に住んでみると自然環境も良くどこでもトレーニングできて、会う人々もフレンドリー。また、ザワザワしている都市部と比べて自分と向き合える時間が増えたところはこれからの自分の人生にとって大きいのではないかと思っています。自分が楽しみ笑顔でプレーすることを心がけて、これからもバスケットしていきます！

Interview
03

すぎのぶお
杉 信男 選手

22歳 大阪府出身



Interview
04

おたうしお
太田 潮 選手

22歳 和歌山県出身



バ スケは高校1年生の時からスタートしたので、他の選手に比べると比較的遅い方かもしれないが、その後はドツプリです(笑)。大学卒業後は、もともと海外でチャレンジしようと思っていたんですが、渡部さんのnote(ブログサービスの)の記事を読んで、将来バスケットを通じて自分がやりたいと考えていたものが既に形になっていることを知り、渡部さんに連絡を取ってお話をさせてもらいました。その後、海外で2ヶ月半ほどバスケット中心の生活をし、2019年11月からストーンズに加わるようになりました。故郷の和歌山県那智勝浦に似ている点も魅力で、島での生活にもすぐに馴染めています。これからは、バスケットでの活動を中心に、地域活動にも参加をしていきたいと思っています。

ABOUT US



2019年にスタート。全国から、様々な夢を持ち集まったバスケットボールと共に関心と地域活動を行うご当地バスケットボールチームです。一人一人がプロアスリートとして、誰かの憧れになることを目指し日々頑張っています！(選手募集中！)



3年 渦元 夢蘭

今回、丹生代表、渡部さん、そして選手の杉さん、太田さんに取材させていただきました。4人のお話を聞いて、1番私の心に響いたのは「自分はこうしたい、こう思う」と言う、考えの芯を持つことの大切さです。これは、今の私に足りない部分なので、この取材をきっかけに私も、渦元夢蘭という芯をしっかりとさせたいと思いました。

今回のインタビューのような人の話をじっくり聞くという経験は今までなかったので、とても不安で緊張しながらの取材でした。友達のサポートや、小豆島ストーンズのみなさんが親身に聞いてくれたり答えてくれたおかげで、話を聞き、それを文章にするという今後に通じる貴重な体験ができました！



MESSAGE

2020年、小豆島で実現したいこと！



すぎのぶお
杉 信男

怪我からの復帰
「夢」への再スタート



みかわてつや
三河 徹也

自分を磨く



むつじもとよき
六辻 元就

スターになる☆



おたうしお
太田 潮

「夢中のキッカケ」をつくり続ける。プラスに。

島に戻ってきました!

近すぎて見えなかった島の自然や人とのつながりが、外から見ると宝物にみえてくる。

島に戻って新しいチャレンジをしているお二人からお話を伺いました。

Return to Shodoshima



Interview

01

須藤 渚

Nagisa Sudo

株式会社Nagimar /
翻訳・通訳、コーディネーター

島だからこそ 場所が限定されない 働き方やスキルを。

—— なんで島に戻ってきたんですか？

十数年大手企業で働いてきましたが、自分の人生という長い時間軸で考えたときに、このままでいいのかな、自分らしい生き方があるんじゃないかなって。あと英語が好きなので、スキルを活かしながら自分のペースで働きたいと思って、島に戻ってきました。土庄町の地域おこし協力隊として活動後、独立して英語に関わる仕事を主にしています。

—— 進路に悩んだり、大学生活を不安に感じている学生に向けてアドバイスをお願いします。

大学で一番得たものは、いろんな人に会えて、いろんな人に刺激を受けたこと。でも、その頃の自分にアドバイスしたいことが一つあって：なんとなくアルバイトをして、労働の対価としてお金をもらってたんです。でもお金を稼ぐ方法っていっぱいあって、もっと自分が興味があることとお金を稼いでたら、と。自分の能力を伸ばしたり、いま無い仕事を生

み出したりということもできたかもしれないなあ、と。その流れでいうと、大学も自分が学びたいことありきで行かないと意味がない。だって、なんだかんだでむっちゃお金かかるもん(笑)。でも、高校在学中にやりたいことを見つけてるのも難しいから、その猶予期間としてだったり、社会に出るための選択肢を広げるということ、大学を選択するというのはありだと思う。進学する人も就職する人も、前を向いて歩いて、自分のスキルを磨いていけば、きっと道が拓けますよ!



もっと島を楽しみ、遊ぶ！

小豆島は自然に囲まれ、新鮮で安心な食があり、過ごしているだけで健康になりそう：そういったイメージの方が多いと思いますが、僕は、都会と比べると日常の運動量が圧倒的に少ないなあと思っていました。ゆくゆくは島で運動に関することに携わりたい、と思っていたところ、知り合いから声をかけていただき、28歳のときに9年間過ごした大阪から故郷の小豆島に戻ってきました。柔道整復師と鍼灸師の資格、そしてフィットネスクラブで働いていた経験を活かした仕事に就き、その後Dinamico（ダイナミコ）という屋号で独立、今はトレーニングができる店舗を構えています。他にも、高齢者への介護予防運動教室や、子どもとのサッカースクール等、運動やスポーツに関わってきたのですが、3年前にSUP（サップ）に出会い、どハマリしてしまいました（笑）。インストラクター資格も取り、SUPの活動も多くやってきて改めて感じたのは、「もっと島を楽しみ、遊ぶ機会を作りたい」ということでした。そして、同級生で土庄町

地域おこし協力隊の藤田くんと一緒に、島のアクティビティ拠点を小部に作ろうという計画を進め、地域の方々にもご理解やご協力をいただきながら、準備を進めています。小豆島が将来どうなっていくのか、正直想像できない部分も多いですが、今は自分が抱いている理想をイメージしながら、やるべきことを確実に実行していく。それが必ず良い影響になると信じてやっています。小豆島から楽しい、オモロいを発信していくことが僕の仕事でもあり、本気の遊びでもあります。ぜひ小部に遊びにきてください！



Interview
02

大川 大地

Daichi Okawa

Dinamico / SUPインストラクター

小豆島 移住体験 ツアー



小豆島・豊島へ移住してくる方は、毎年300人ほどで、Uターンを合わせると約500人の方が、新しい生活をスタートさせています。人口に対して1%を超えている方が移住してくる地域は全国的にも珍しいそう。島ぐらしのきっかけの一つになっている、小豆島移住・交流推進協議会主催の移住ツアーは、なんと参加者の3割ほどが移住に結びついている！とのこと、こういった内容なのか、見学をさせてもらいました。

ツアーの形態は、①地方移住を検討し始めた方向けの全般的な内容のツアー（1泊2日）②交流や体験をメインにした1日開催のツアー、の2種類あり（今回は②のツアーに参加）、空き家見学、子育て施設の見学、先輩移住者の店舗などを見学。夕方からは、浜辺で夕日を浴びながらいろいろ話をし、その後島の食材をたっぷり使った夕食を先輩移住者と一緒に食べるといふ、普段味わうことのできない貴重な経験ができました。

小豆島の暮らしや人を知るきっかけになっているこのツアー。今年は今までの形態に加えて、新しいことを考えているようで、これからの活動が楽しみです。



Uさん

外からの文化が流入し、それがうまく融合していると思うので、開放的な印象があります。スーパーマーケットや病院、子育て施設もあり、私たちがのように都会からの移住検討者にとって、普段の生活のギャップがあまり無いのが、ありがたいですね。

住居はタイミングもありますので、まずはどう暮らしたいかという生活スタイルのイメージを固めることに加えて、仕事ですね。

家族で参加（ご夫婦と2歳と0歳の子ども）／現在の居住地：東京



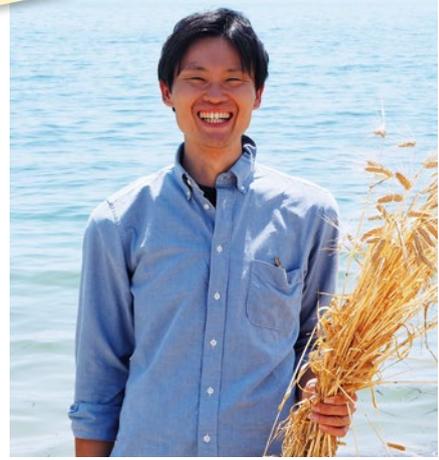
Hさん

小豆島は、ドラマ「ラブレター」をみてから興味が湧くようになりました。海は1人でぼーっと眺められ、山はそんなに高くなくても登れば街並みを見ることができるといふ、バランスの良い自然があるところに魅力を感じて参加しました。

ご夫婦で参加／現在の居住地：大阪

参加者にお聞きしました

た やま なお き
田山直樹 (30歳)
[土庄町地域おこし協力隊]



PROFILE

1990年、鳥取県生まれ。2019年5月に愛知県から小豆島へ移住。主に移住促進や前職の書店員の経験を活かし、本を通じた交流の場づくりの活動を行っている。4月5日(日)旧戸形小学校にて、一箱古本市を開催。

Interview

01

小豆島人の暮らし方、生き方に心が動いた

い！」と移住してきました。

いします！

カ

ヤックツアーで訪れた時の自然の美しさに魅了されたから、ずっと頭の片隅に「小豆島に住みたい」という想いがありました。考え始めた当初は迷いもありましたが、最終的な決め手は、島で知り合った「人」。都会のように便利ではない島だからこそ、自分でできることは自分でやる。自らの力で人生と向き合っている島の方々の暮らしが心に響き、「小豆島の素晴らしい環境でこんな人たちと一緒に暮らしたい！」と移住してきました。

現在は地域おこし協力隊として、移住促進活動を行なっています。移住者の生活基盤となる家の確保・整備や、移住後の暮らしをイメージできるような情報発信が今後の課題だと思うので、力を入れて臨んでいきます。ゆくゆくは空き家の悩みを相談できるような場所を作れば……。それと並行して、小豆島で本にまつわるイベントをたくさん行なうことで、小豆島を「本の島」にするのが夢です。これからもよろしくお願

小豆島に移住してきました！

小豆島・豊島への移住を検討している方対象のツアーは年に5回ほど行い、毎年50人ぐらいが参加をしています。このツアーに参加されて、移り住んで来た方をご紹介します！

かき さこ わたる
柿迫航 (32歳)
[デザイナー(リモートワーク会社員)]



PROFILE

1987年、東京都生まれ。2019年5月に鎌倉から小豆島へ移住。東京の会社に所属しながら、小豆島で仕事をしているテレワーカー。デザイナーとして、企業やサービス等のブランディングやデザインを行っている。

「150年後を見据えた」考えを持っている島

都 市部のカルチャーや人々に刺激を受けつつも、ストレスと隣合わせの住環境に違和感を感じていて、ここで一生を過ごすのは違うな、という思いが深まっていたときに、2011年の震災もあって。もし、直接被害のあるような震災が起こったら…という、今までは違った不安も抱くようになりました。本来の人間の生活に近く、ストレスの少ない環境で、自分のスキルを活かして暮らしたい。そう考える中で、様々なご縁もあって小豆島で暮らすことになりました

した。移り住んでから、もうすぐ10ヶ月になりますが、仕事をする上での支障もなく、むしろ集中できますね。いまの時代は、東京にすることだけが正解ではない。今でも大都市での就職を目指して、勉学に励むのが主流ですが、どこでも自分の価値を届けられるようになるには？という視点で、自分の能力を伸ばすということが必要になってくると思います。ゆくゆくは独立したいと考えていて、この持続可能性のある島で面白い活動ができれば嬉しいですね。

Interview

02



私たちが考える

“ふるさとの魅力”と“未来の小豆島”

今回の取材を通じて、今までとは違った「島のいま」を感じることができました。
そこで感じた魅力、そしてふるさとの想いを未来に繋げるためにどうすればいいか。

小豆島ロータリークラブの皆さんと意見交換をしてきました。



(後列左から)2年 和田君、泉谷校長、岡田氏(小豆島ロータリークラブ)、太田氏(小豆島ロータリークラブ)、今上氏(小豆島ロータリークラブ)、城石氏(しまのみらいプロジェクト)、2年 藤田君
(前列左から)2年 平野さん、2年 森野さん、2年 岡本さん、3年 根本さん、3年 湯元さん、2年 芳地さん

Discussion



改めて感じた島の魅力

城石氏 冊子全体として「島の現在と未来」というテーマを掲げ、高校生が3つのグループに分かれて取材をしてきました。いろいろと感じたこともあると思いますが、未来に向けてこんな島になったらいいな、と思うことはありませんか？

岡本 私は、今回「YOUは何しに小豆島?!」という企画で、観光で来ている方にとって魅力的なところが魅力に感じて来たかを取材しました。話を聞いて、改めて観光は島にとって大事なもので、もっと盛り上がって欲しいです。魅力ということだと、いま島内にあるカフェが食べ物はもちろん、人も魅力的だと思うのですが、島の人でも知らない人もたくさんいます。まずは住む人が、自分の島のことを知って、応援する

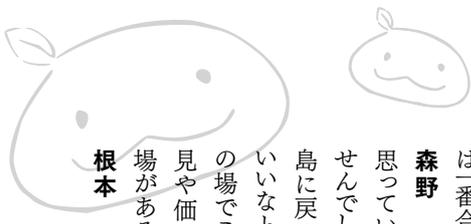
ことが必要だと思います。

湯元 私もそう思います。観光で小豆島に来て、都会にあるようなスターバックスやマクドナルドのようなチェーン店があっても、魅力的だとは感じてくれないですよ。ね。
校長 都市部の人が思う、島のごちそうって、普段みんなが食べているようなものだから、そういった魅力に気付くことが大事なのかもしれないね。

和田 僕は島の豊かな自然が大好きなんです。寒霞渓が日本三大渓谷美ということを知らない高校生や島の人もいます。すぐにこんな綺麗な自然があるのにと、知られていないことが残念です。島のファンを増やして、また来たいと思ってくれる人を増やすようなことができないかなと思っています。

岡田氏 こういった活動を通じて、高校生が島のことを知ってくれるのは、本当に嬉しいですね。観光と移住の間のような「関係人口」という概念が注目されています。小豆島というならば、島のファンとも言える人たちですね。今では人口の1%以上





の方が島に移り住んでくれている。その方たちも島の魅力や人々と関係を強め、その上で移住という大きな決断をしてくれた。Uターンについては、一昔前の小豆島は家業を継ぐために帰ってくる人が多かったですが、そのケースは減り、Uターンの人の情報発信から、島の魅力を再確認してUターンする人もいると聞きます。ですので、広い目での小豆島の活性化が必要ですね。

太田氏 進学で小豆島を離れるときに卒業アルバムを持って行って、懐かしんでいる友人が多かったです。私もですが、島を出て初めて、島の存在や良さに気付かされるんですね。近すぎる、当たり前前にあるものって、意外と見えにくい。その良さに気付いた人が島に帰ってくるんですよ。

これからの島との関わり方

藤田 僕は、大学で勉強したので、一旦は島から出ますが、大学を卒業したら島に戻って働きたいと思っています。生まれも育ちも島で愛着がありますし、自分には一番合っていると思っています。

森野 私は将来看護の仕事に就こうと思っています。島外での就職しか考えていませんでしたが、今日みなさんの話を聞いて、島に戻って就職するという選択肢もあっていいなと考えが変わってきました。私がこの場でこう思ったように、いろんな人の意見や価値観を知ったり、島の良さを知る場があることも大事ですね。

根本 3月で卒業なのですが、その後は



島で就職するということもあり、とても興味深く関わらせてもらいました。今回、移住やUターンの方への取材を通じて感じたことは、それぞれが自分の得意な分野でアクションを起こして、楽しみながら島を盛り上げていることでした。年配の方は、新しいことや移住の方に対して少なからず距離感があると思いますが、時代の流れと共に変わっていく島を理解して興味を持ってもらいたい。そして、小さな子からお年寄りまで、みんなが地域に関わっていけるような島になればいいと思います。

今上氏 離島という閉鎖的な環境において外からの視点は重要で、特に進学等で島外に出るみなさんの意見はとても貴重です。小豆島を知らない若い人たちに、SNSなどを使って島の良さや魅力を気軽に発信してくれる宣伝マンにもなってほしいのですが、逆に島にいる人に対して、外から見るとこういうところが魅力的だよ、ということも教えてもらいたい。また、島に足りないこと、より良くなるために変わった方がいい部分なども伝えてほしい。

島の人同士お互い成長できるような環境があれば、もつと島が良くなると思うんです。

自然が豊かな島だからこそ、エコの島に

芳地 私は、島の生活にとって大事な海を守りたいので、将来は海上保安官を目指しています。浜辺に落ちてくるゴミは外から流れ着いたりもするけど、誰が片付けるのかというと、島の人がやるしかない。子どもや高校生は授業などでゴミ拾いをしたりもしますが、大人の人たちはそういうことをする機会も少ないと思うので、自然を綺麗にするイベントをしたい。それに島の中の人々がたくさん関わってもらって、住む人みんなできれいにしていきたいです。

平野 芳地さんの意見にすごく共感します。世界的に問題になっている海洋プラスチックゴミは、海と共に生活している島民にとって他人事ではないですし、今年はレジ袋の有料化もスタートします。社会全体が環境問題に取り組んでいるので、小豆島も地球にやさしい「エコの島」になってほしいです。ただ、私たちだけでは声が小さいので、企業の方も環境問題に目を向け、率先してもらおうことで、島全体の活動に繋がってほしいです。また、そういった島を良くすることや、今回の私たちの活動を知る機会が少ないので、芳地さんがやりたいと思っているイベントなどをまず知ってもらうためのきっかけを作ること大切ではないかと感じました。

岡田氏 私たちは、みなさんが帰ってきた

くなるような島になるように、頑張らなければいけないですね。進学で外に出る生徒さんたちも、この島の良さを忘れずに、魅力を伝えていってもらいたいと思います。

城石氏 短い時間でしたが、幅広い意見交換ができて、とても良い時間でした。今後もうこういった場を重ねて、ゆくゆくは先輩たちと一緒に、島の未来を作っていきたいですね。

校長 生まれ育った島と、これからどう関わるかを考えることは、自分の人生を考えることにも通じます。そのためにも、高校の役割は非常に大きいと思いますし、島のことを良く知り、考える場をどんどん作っていきたくと思っています。彼ら彼女らが島を担う一人一人になっていくので、大げさではなく未来の小豆地域は自分が担っているという認識を、それぞれの生徒が持てるようにしていくことが、島高の二つの役割ではないかと思っています。



担当ページ

2~5	藤田 宗太	観光客の人との交流から、私たちが普段なんとも思っていないことは、実は小豆島の持つ素晴らしい特徴だと気付くことができました。
2~5	和田 真之輔	この活動に参加して小豆島は自分が思っていたよりもいいところだなと思う発見がたくさんありました。また参加したいと思います。
2~5	岡本 奈那子	島外の方から見た小豆島像と、私達がいつも見ている小豆島像が微妙に異なっており、たくさんの魅力が発見、再確認できました。
2~5	平野 葵子	小豆島の現状や改善点などを客観的な面で知ることができ、新たな視点から小豆島について深く考えることが出来ました。
2~5	森野 佑奈	観光地でのアンケートを通して、住んでいる中では気づけない島の素晴らしさや、改善すべき点を知れて、とても有意義な体験ができました。
6~9	三好 ヒカル	「しまいろ」制作の中で、私が感じた島の魅力を少しでも多くの人に知ってもらいたいと思いました!
6~9	石床 幸那	このようなプロジェクトに参加することができ、島の高校生としてとても幸せでした!これからも小豆島の魅力を発信していきたいです。

担当ページ

6~9	森口 朋香	小豆島のきれいな景色、素敵なお店を巡り、島の良さを再発見することができました!このプロジェクトに参加してよかったです。
6~9	岡田 圭世	初対面の人からの小豆島への熱い思いにとっても感動!小豆島にずっといたいと思う人が一人でも増えれば嬉しいなと思います。
6~9	芳地 風	島にある魅力的なカフェを巡るうちに、小豆島は本当にいい島だなと実感しました。これからは島の魅力を発信していきたいです!
6~9	谷久 瑞歩	たくさんの店を巡っている人々の話を聞いて楽しかったです。たくさんの人に小豆島の魅力が伝わると嬉しいです。
10~15	根本 咲愛野	今回の活動に参加して、自分が生まれ育った小豆島にはたくさんの魅力があると再確認できました。小豆島をさらに好きになりました!
10~15	湯元 夢蘭	移住者の方や島の方のお話を聞いて、気づけなかった島のいいところに気づくことができ、いい経験になりました!

高校生へ

MESSAGE

ロータリークラブ

高校生へ

先生

生徒たちへ



小豆島中央高校生徒の皆さん、これからの小豆島の発展には皆さんの力が必要です。島高ワンダーランドで生まれたホームページ・パンフレットを大いに活用して頂き、小豆島の魅力をどんどん発信してください。期待をしています!合わせてご協力頂いた関係者の皆様にも御礼申し上げます。

60周年記念 大会長 岡田 好平



自分たちの地域の新たな面を知り、思いを深めることができただけでしょうか。プロジェクトに参加した人は、活動を通して実感できたことを大切にしてください。読んだ人、係わった人、すべての人にとって、今後の考えや行動のきっかけになることを願っています。

泉谷校長先生



今回、特に島高ワンダーランドの取材などに携わって頂いた生徒の皆さんの活躍、大変嬉しく思います。記事の中にもありますが生徒の皆さんとの意見交換では私自身もとてもいい刺激を受けました。今回の事業を通して小豆島中央高校並びに小豆島全体がワクワクするような発展をしていって欲しいと思います。

60周年記念 事業委員長 今上 茂樹



このプロジェクトに携わり、あらためてこの島には魅力とポテンシャルがあることを感じる事ができました。島を一度離れる高校生に、もっと島を知り、島を考えるきっかけにしてもらうとともに、地元である島とのつながりを持ち続けることを願っています!

野崎先生